

第2期 瀬谷区地域福祉保健計画 第7回策定委員会 議事録

平成22年12月10日(金)

午前10時～11時30分

区役所1階会議室

● 出席者

・策定委員メンバー 16名

名和田委員長 網代副委員長 諸橋委員 水野委員 早坂委員 清水委員 岸本委員 河野委員
堀川委員 北井委員 永嶋委員 上原委員 米倉委員 大貫委員 中野委員 本田委員

(欠席: 田村副委員長 小澤委員)

・オブザーバー (2名) 石原福祉保健センター長、金丸総務課長

・事務局 (9名) 小嶋課長、榛澤係長、区社協山下局長、仲丸次長、他5名

・コンサル(記録) (1名) 佐藤

配布資料 資料1 第2期 瀬谷区地域福祉保健計画(中間案)意見募集結果
資料2 第2期 瀬谷区地域福祉保健計画(中間案)への意見
資料3 第2期 瀬谷区地域福祉保健計画(最終案)
資料4 第2期 瀬谷区地域福祉保健計画 全域計画(案)
資料5 第2期 瀬谷区地域福祉計画中間案からの変更点
資料6 第2期 瀬谷区地域福祉保健計画 概要版(案)について
資料7 第2期 瀬谷区地域福祉保健計画策定スケジュール

1 開会

(小嶋課長)

小嶋福祉保健課長あいさつ

- ▶第7回策定委員会を開催します。4月末から約8か月間、タイトなスケジュールの中、策定委員会をやってきて、おかげさまで持ちまして最終案をまとめる段階まできた。
- ▶本日は計画作りの集大成の場として最終案の確認をお願いします。

名和田委員長

- ▶本日で最終案を確定して、来年度からの第2期の新しいステージに進む大事な節目ですので、しっかり議論をした上で、最終案を確定したいのでご協力よろしくお願ひいたします。

2 第2期 瀬谷区地域福祉保健計画(中間案)意見募集結果について

資料1、2

《資料1、2 説明》

榛澤係長

- ▶区民意見の募集は、10月14日(木)～11月24日(水)まで行い、区民生委員児童委員協議会を皮切りに中間案を公表し、36団体569名にご説明させていただきました。
- ▶ご意見は、関係団体44人から44件、その他、21人から24件いただいた。
- ▶その他は、はがき・ホームページ、メール、意見募集用紙、ファックス、直接来所でいただいた。
- ▶意見の内容は資料2にすべての意見を分類して載せてある。
- ▶計画の骨子に影響するようなご意見はなかったが、実際の事業や取組を推進する上でご意見を参考に進めていきたい、区役所の所管課にも情報提供を行った。

名和田委員長

- ▶全部で68件の意見があったということで、そのうち関係団体が44件ということ。
- ▶中間案の基本的なところを揺るがすところはなく、今後の取組で活かしていくと報告を受けた。よければ、今日のメインの地域福祉保健計画の最終案についてご説明いただく。

3 第2期 瀬谷区地域福祉保健計画(最終案)について

資料3、4、5

≪小嶋課長 資料3(最終案) 資料4(全域計画 案) 資料5(中間案からの変更点)説明省略≫

名和田委員長

- ▶これが、我々が7回の審議を重ねて作り上げた最も重要な成果物であり、今日、これを確定するところまでこぎつけたい。
- ▶主な変更点を資料5にまとめてあり、地域ケアプラザの取組について追加されている。

網代委員

- ▶3点申し上げたい。
- ▶資料3P1 単なる表示の問題だが、基本理念の3つのハートが見にくく目がちらちらするのと大事な文言でもあるのに中の文字も読みにくいので見やすくしてほしい。
- ▶P18 地域ケアプラザの役割について追加記入をしてもらっているが、今後、ぜひ、地域ケアプラザの運営協議会の報告の中で地域福祉保健計画に基づく活動がどう行われたか説明してもらえるようにご指導お願いしたい。
- ▶P9～10 推進課題1に関わることで、主に身体的、精神的な障害等の記載があり、「個性として理解され」とあるが、昨晚も中学校長と話をした時、母子家庭、父子家庭が増えている中、生活の困難な人が増えていて、その家庭のこどもの教育に関わるのは非常に困難だという話があったので、そういう人たちへの見守り、支えあいの観点も大切な視点だと感じた。

名和田委員長

- ▶今のお話を事務局の方で受け止めてほしい。

榛澤係長

- ▶2期計画の推進の中で取り組んでいきたい。

名和田委員長

- ▶文言の修正は、ここで議論を積んだ上で計画書に反映することを事務局と私に任せてほしい。
- ▶今の地域ケアプラザに関する話は来年度以降の運営に活かしていきたいと思う。
- ▶過去10年間瀬谷区に関わらせていただいて、瀬谷区でもいろいろ新しい発想と新しい言葉がとびかうようになったと感じる。
- ▶たとえばP46 の評価のところ“アウトプット”と“アウトカム”という言葉が出てきたが、アウトプットは直接の結果(ケアプラザの数が増えましたとか地域福祉保健計画の認知度が上がりましたなど)、アウトカムは、その理由、実際の意味づけのこと(ケアプラザが増えて実際どのように地域福祉計画が進んだかなど)。P46に書かれていることで充分で、特に用語解説に載せるほどのことはないと思うが、やや今まで使わなかった言葉が、地域社会でいろいろな取組に入ってきていると感じた。新しい言葉であるが今後いろんな局面で出てくると思うので、お知りおきいただきたい。

清水委員

- ▶P69 「主な福祉・保健・医療施設」に直接の施設名ではなく、施設の数載っているが、一般の方が見た場合、この計画の中のどこに関連する施設なのかもわからないので、かえって混乱すると

思う。「どういう施設か」「どこにあるの」「何をしてくれるの」という疑問がわくと思う。

▶数だけでよいのか、一般の人にはわかりにくいのではないか。

名和田委員長

▶この部分は事務局ではさんざん議論になった部分。

▶ある意味、地域福祉文化の前進でもあり、地域福祉保健計画は生活全般に関わるという理念なので、それに関わる施設となるとあれもこれもととなり、地図にすると特定の部分が真っ黒になってしまうため、一覧表にしたが、そうすると一般の人は何の施設かわからなくなってしまう。

榛澤係長

▶ご指摘いただいた点も非常に議論したところで、どのような形にしたらよいか委員の皆様にご意見をいただき反映していきたい。

名和田委員長

▶例えばコミュニティースクールなどいくつかについては用語解説に載せている。分かりにくいものだけ用語解説に入れるとか、右下のせやまる君のあたりに小さく載せるとかご意見をいただきたい。

網代委員

▶P69のこのような施設を活用して活動に参加している者でもこれではわからないところがあるので、一般の方はなおさらわからない。

▶たとえば高齢者関連施設としていくつかあがっているがそれぞれの違いがわからないので、説明と、詳細はここに連絡してくださいと明記したらよい。

名和田委員長

▶施設の概要を紹介するというをより充実できるように、事務局と私で検討するためにいろいろな意見をいただきたい。

▶先ほどP49の空白の頁を詰めるとあったが、スペースの使い方など、レイアウトの技術を活かして工夫したい。

諸橋委員

▶地図には書ききれないなら連絡先を書けば皆様にかかる。

清水委員

▶NPO法人もありすべてが公のものではないので、それは無理だろう。

▶名称をひとつひとつ入れる必要はなく、見た方が必要となった時にわかるように施設がどのような役割を果しているかわかればよい。

名和田委員長

▶内容としては、2 高齢者関係施設 3 障害者関連施設 の表の下に小さな字で説明書きを加えるイメージか、事務局ではイメージがわいているか。

清水委員

▶この計画の中に記載されている部分があるのなら、その何ページのどの部分がこれ、とつながりを持たせるとよい。

本田委員

▶主だった施設の住所や連絡先は、毎年区民生活マップに載せている。また、5年間の間にどんどん変わるので、説明と「区民生活マップをご覧ください」と載せたらよいと思われる。

水野委員

▶たとえば、子育て支援の「認定こども園」、障害の「強迫的ギャンブル回復施設」はどういうものか、

計画そのものが区民の福祉教育の教科書になるのでわかりにくいものについては説明があるべき。

▶「認定こども園」は、保育所や幼稚園の新しい形であるが、子育てで切羽詰った人が見た場合違いがわかるガイドラインがあるとよい。「強迫的ギャンブル回復施設」など、私たちでも入れるのかなどと思ってしまうかもしれない。

▶この計画書は、区民が見て理解できるということが前提だと思う。

名和田委員長

▶方向性を出していただいたので、事務局の知恵で検討してもらおう。

▶P1のハートは確かに見にくいので、これもデザイン的には検討し直したい。

中野委員

▶P69で高齢者の施設で似たような所がたくさんあって、どのような利用ができるのか度々質問を受けるのでわかるように書き分けてほしい。

▶障害者のところでグループホームが17あると書いてあるが、区民意見募集結果の分野別の意見の中に「身体障害者のグループホームを作ってほしい」と要望もあるので、「こんなにあるのに、まだ作るの」と誤解を受けないように、グループホームの数を障害別に記載したほうがよいのではないか。

名和田委員長

▶認知症高齢者グループホームが28もあると、数の絶対値で判断されても困る。そこは説明の仕方を気をつけたい。

▶これは全市計画にもあり、P2各分野別計画と地域福祉保健計画の関係を表したものがあるが、それぞれの分野の詳しい事は、それぞれの計画と連動して動いているので、その関係を念頭に入れて地域福祉保健計画の冊子の中で必要に応じて十分な記述を考えたい。

▶記述的にはさんざん議論してきて頭が痛い宿題であるが、基本的な方向を出していただいたので検討していただきたい。

▶それでは他に意見がなければ、宿題を検討する上で、これで計画を策定させていただいてよろしいか。(一同 はい)

▶事務局が報われる瞬間でもあります。どうもありがとうございます。(一同拍手)

4 第2期 瀬谷区地域福祉保健計画 概要版(案)について

資料6

《山下局長 資料6 説明》

山下局長

▶概要版の作成について、計画の最終案が了承されましたので、これに基づいて作成する。

▶概要版を作成する理由は、本来なら冊子をたくさん印刷したいが、経費的にも厳しいので、広く周知する上でも概要版を印刷したい。

▶内容としては、最終案から抽出して、「基本理念」「計画策定の意義」「計画策定までのプロセス」「全域計画の構成」「地区別の紹介(柱立ての部分)」を載せたい。

▶仕様はA3見開きで二つ折りのもの、もしくはA43枚をつなぎあわせたものを考えている。

名和田委員長

▶ありがとうございます

▶概要版のイメージを示していただいた。地域福祉保健計画を広く示すために、概要版は必要。

- ▶全市計画の分科会の方でも、冊子を作る印刷費用が大ピンチで、市役所の中で印刷したり PDF など電子的な形で渡したりしている状況である。
- ▶概要版の案についてご意見が無いようでしたら、概要版は事務局で粛々と作っていただく。

5 今後のスケジュールについて

資料7

《榛澤係長 資料7 説明》

榛澤係長

- ▶本日の後、12月16日の瀬谷区福祉保健関係団体の代表からなる「瀬谷区地域福祉保健推進会議」で承認をいただき、12月末ごろ、区長の決裁で確定となる。
- ▶その後ホームページにアップし区民に公表していく。1月から関係団体の説明、3月の広報よこはま瀬谷区版にクローズアップとして1面の3分の1程度でシンポジウムの周知を含めて記事を出したい。
- ▶併せて3月19日(土)午後に第2期地域福祉保健計画シンポジウムを公会堂で開催しますので、皆様のご出席をお願いするとともに、なるべく多くの人に来ていただけるようご協力お願い致します。

名和田委員長

- ▶今後のスケジュールについて12月16日の節目と3月19日の節目を特に強調していただいた。
- ▶シンポジウムは、第2期計画の全区民に対してお披露目をする大事な機会ですので、なるべく皆さんにご都合をつけていただき出席してもらいたい。

6 その他

名和田委員長

- ▶それでは最後に私からのお願いで、計画策定について委員の皆さんお一人ずつから感想をいただきたい。皆で共有して心の中に残し、これからの力にしていきたい。

諸橋委員

- ▶委員長と皆さんですばらしい計画を作れたと喜んでいる。
- ▶区全体の計画もこれで十分だと思うし、地元の方も地域性がいろいろあるので考えなくてはいけないことがたくさんあるが、他所の真似をするわけではないが、これを見てよりよい地域作りを頑張っていきたい。ありがとうございました。

水野委員

- ▶本郷地区では、第1期計画の時に本郷地区社協が立ち上がり、その時からここまできた。第2期の策定に関わらせていただいて経過がよくわかったので、これに基づいて地元の計画を少しずつ進めさせていきたいと思う。いろいろありがとうございました。

岸本委員

- ▶本当にすばらしい計画になり、誇りに思う。
- ▶これからの中でお願いしたいことが意見の中にも出ていたが、全域計画の中では、新しい地域ケアプラザ等ができるが、各地域での活動を支える福祉保健の土台となる各地域の拠点を作る支援を、ぜひ、力をいれてやっていただきたい。
- ▶地区別計画について、早速、かわら版で地区内全世帯に知らせたい。

河野委員

- ▶社会全体、経済的な面から考えて、経済的弱者である、若年で生んだ母子家庭や離婚家庭など、これから将来を担っていく子ども達が経済的な面で差別を受けないような支援をお願いしたい。
- ▶各地区ではそれぞれ違うが、地区別計画では子育て支援という立場で頑張っていきたい。加えて、ひきこもりや不登校、虐待など、あまりよいニュースではないが、健全な子どもを育てていくためには、大人や近隣の力が大事だと思うのでよろしくお願い致します。

堀川委員

- ▶瀬谷区民でなかったが、途中で引越しをして瀬谷区民になった。
- ▶この策定委員会に加わって、いろいろなことを勉強させていただき、他の区から来てよい区に来たと感じる。ありがとうございました。

永嶋委員

- ▶初めて策定委員会に参加させていただき、第2期計画の資料に目を通して大変すばらしいと思う。今後の私どもの勉強になることがたくさん含まれているので参考にさせていただく。
- ▶計画推進についてアウトプットとアウトカムも勉強させていただきたいし私も勉強していく。
- ▶計画の策定プロセスもわかりやすくスケジュールもきちんとされていて嬉しく思う。
- ▶用語解説も大変わかりやすく、私にはよかった。
- ▶今後ともよろしくお願い致します。ありがとうございました。

上原委員

- ▶策定委員会を通じていろいろ勉強させていただいた。障害があっても地域で普通に過ごしたいと思える子どもを育てている。地域のことを知らないといけないと思っていたがそれがこの会でできた。
- ▶障害の世界でも、横浜市では後見的支援制度という新しい制度が始まり、見守りの視点が入った施策が展開されていくことと、自立支援法が廃案になるなど、これから変わっていくので、推進にあたって障害分野を皆様といっしょに関わって行けたらと思う。よろしく願いいたします。

中野委員

- ▶計画ができました。ここまで来るには、たくさんの人の力の結集だったと思う。意見を出し合うメンバーがいろいろ勝手なことを言う中まとめていただき、ありがとうございました。
- ▶でも、これはまだ計画なので、これから実施していかなくてはいけないし、これが絵に描いた餅にならないために誰かがやってくれるのではなく、住んでいる自分たちの町のことを自分達でやっていくのだという覚悟も新たに、嬉しい気持ちと緊張という重いものを頂いたような両方の気持ちがある。
- ▶いつも住民として、地域の課題解決に向けて何ができるのだろうと考えながら活動を続けている。活動には、仲間も大切だが、経費と言う意味でお金も大切。つついお金を抜きにして「こんなことがあったらよいのに」というがそのお金の捻出までも私たちは考えなくてはいけないのではないかと考える。地域の中でお金を生み出しながら地域貢献もできる、というような場所を作っていきたいと考えている。いわゆるコミュニティービジネスと言ってしまったらそれまでだが、ビジネスとして成り立たないまでも、経費が生み出せて継続ができるような場所があると思う。そこまで考えると、私たちは、地域自治の入口に立っていると感じる。それを意識していかないと、やってもらいたい、それをしてほしいと言うだけではいけない時代にさしかかっている。その上で今日の計画ができたと重く前向きに受け止めさせていただいている。ありがとうございました。

本田委員

- ▶大変な回数を重ねてご参加いただきありがとうございました。
- ▶この策定委員会に参加し、知恵を重ね合わせるという体験をして、非常に勉強させてもらった。
- ▶できた地区別計画は、第1期に比べても多彩な内容でよい物ができたと思う。
- ▶現実の世界に目を向ければ、虐待、DV、貧困など、いろいろな問題が日々発生しており、課題はたくさんあるが、1期と比べて2期を考えていくという中で、地域福祉の視点の部分は少しずつだが前に進んでいるという実感がある。覚悟を含めてじっくりと前に進んでいきたい。

大貫委員

- ▶今回始めて参加させてもらい瀬谷区のことをより深くわかり、貴重な時間を過ごすことができたことをありがたく思っている。
- ▶中間案の意見募集について、お母さん方に声をかけさせていただいたが、意見募集の結果に子育ての分野の意見の件数が多くあるように、子育て中のお母さんが意見を持っていてもなかなか声をあげる手段がないという現実があるように思う。
- ▶瀬谷区内の子育てしているお母さん方の声を集めていく活動をママネットでやっていきたい。それにあわせて、こどもも声を出せるような環境も作って行く必要があると思う。
- ▶今回、いろいろな地域でいろいろな活動をしているということが見えてきているので、瀬谷区で子育てしてよかったと思える区にしていきたいと思っている。ありがとうございました。

米倉委員

- ▶精神障害者家族会代表で参加させていただいた。私はどうしても障害者プランの視点で物を考えてしまうことが多かったので、いろいろな分野の方の話を聞いて勉強になった。
- ▶精神障害者の中でも格差があり、作業所に行ける人は精神障害者の中でもエリートであるとうちのこどもは言っている。私もそう思う。精神疾患による受診患者は320万人もいて、どの患者も世の中で認められるように頑張っていきたいと思っている。障害者プランなど4つのプランと横断的な地域福祉保健計画との関係の中で、何とか地域のコミュニティーの中に精神障害者が認められる世の中を作してほしいではなく、作っていききたいと思う。
- ▶国の方では、障害者制度改革推進本部ができ、その下の会議とそれぞれの部会が順調に活動している。もうひとつ、精神障害者の分野で言うと、こころの健康政策構想会議が立ち上がり、それはすでに終了して厚生労働省に案を出し、それに基づいて予算がつくのだろうと思うが、精神障害者のエリートではない人への支援をやろうと100万人署名などを行い動いている。
- ▶これからもよろしくお願い致します。

北井委員

- ▶策定委員でいろいろ勉強させていただきありがとうございます。これからもよろしくお願い致します。

清水委員

- ▶いろいろ勉強させていただき、ありがとうございました。
- ▶いろいろな方がいらっしゃり、誰が理解するのかというと、区民ひとりひとりが理解していかなければいけない。それは区レベルでは難しいので地域の中で理解をしていこうという思いが広がって行く必要がある。そのような意味では今回の計画は、地区別計画と全域計画がうまくリンクしていることが味噌だと思う。
- ▶全体で見ると、「行政の役割」「地域の役割」「区民ひとりひとりの役割」が打ち出されており、区レベルでのことと、地域の地区別計画の中で地区はどのように動いて行くかと言うとき、どのような思いで達成していくべきかを地域の中でじっくりと皆で話し合うことでさまざまな人の理解につながって

いくと思う。

- ▶私は、成人して外に行ってもかまわないが、やがて必ずここに戻ってきて最期を迎えたいと思える地域を作って行くことが大事だと思う。そのような思いでこの計画の策定に関わらせていただいた。
- ▶最期に、地区別計画をうまく推進していくための役割は地区社協だと言いがちだが、実はそうではなく、連合も地区社協も皆一緒になってやっていく必要があるとこの2期計画の中で感じた。
- ▶どうもありがとうございました。

早坂委員

- ▶11月末を持って民生委員を退任したが、これからは、地元のボランティア福祉活動で体を動かす方を頑張りたいと思っている。
- ▶策定委員の皆様との出逢いがあったことを感謝している。
- ▶残念に思ったことは、用語解説の中に、プレイパークという用語がなくなったこと。実は私は、上瀬谷の方にプレイパークを作る推進をやったらよいと思っていたので用語がなくなったということに寂しさを感じる。子ども達が部屋の中でなく、青空の下で思う存分遊べる場所の確保が大事だと思うので、これからの5か年計画でぜひ復活させてほしいと思う。ありがとうございました。

網代委員

- ▶策定委員の一員として関わらせていただき、さまざまな勉強をさせていただき、本日、大変すばらしい計画ができたことを感謝する。
- ▶今後推進して行く上で、多くの区民の皆様への理解と努力、また関係機関の皆様への努力がなくてはならないと思う。そのためにも私のできることとして、地区で地区別計画の推進を図る過程の中で、多くの方に計画を理解してもらえるように努力をしていきたい。地区別計画を検討するにあたり、地区支援チームの皆様が私事のように親身にご指導ご協力いただいたことに感謝する。
- ▶今年も自分の気持ちとして、高齢の方、障害の方、支援を必要とする方の理解を自分でも深め、地域の人にも知ってもらいたいと努力してきた。また、この瀬谷を担ってもらう子どもさん方に健やかに育ってもらえるように微力ですが手助けしていきたいと思っている。ありがとうございました。

名和田委員長

- ▶最後に私もひとこと。皆さんの力強い言葉で推進していくと言っていただき、計画を作っただけでなく、今後の推進が保証されているように感じ、とても嬉しく思っている。
- ▶第2期でも委員長をやらせていただき、大変勉強になった。
- ▶全域計画も地区別計画もいずれも双方に渡りしっかりした振り返りの上に立っているという素晴らしい計画だと思う。資料3のP3～P4がとてもわかりやすい。
- ▶瀬谷区の振り返りが非常にわかりやすいのは、第1期に皆様の方で実際に推進をしてきて成果をあげてきたということがあるから、振り返りの材料も多いということだと思う。
- ▶しかも地区別計画を第1期で作っていて振り返ることができることもすごい。
- ▶瀬谷区の計画書のP3で第1期の振り返りまでやっていることが全市的にも先進的だと思う。
- ▶今回の策定過程を振り返ってみて、地域福祉活動計画と一体的に策定するというのが全市的方针でもあったが、区社協が実質的に事務局の中に入って強く関わってくれたことが心強かったと思う。推進にあたってはよろしくお願いいたします。
- ▶地区担当制が機能したこと。皆様方は地区担当の動きをこのような場や打ち合わせの場で実際に見ていただいていると思うが、私が見聞する所によると、熱心に動いてくれたとありがたく思う。

- ▶全国区の自治体でも地区担当制が話題になっており、平成の大合併で自治体の規模が大きくなってしまい、改めて地区担当が見直されている中、それを地道な形で地域福祉の計画を通じて横浜市で実践しており、瀬谷ではそれがかなり機能していることは大事なことだと思う。
- ▶策定過程の中でも言ったが、第1期を推進する中、地域ケアプラザの認知度があがってきたということは、地域ケアプラザ側の取組が熱心でそれが進展してきたからで努力に感謝したい。
- ▶横浜市が地域施設を作るのがなかなか困難な中、工夫をして90年代から着々と地域ケアプラザというインフラの整備を進めてきて、中身もあがってきていると感心する。
- ▶第1期では手探りだったが、第2期では新しい委員も加わり策定委員会の議論もなかなか活発であったことが計画の内容がよくなった最大の理由だと思う。皆さんありがとうございました。
- ▶最後に余計なことかもしれないが、瀬谷区の地域施設の指定管理者の選定に関わったが、指定管理者の仕様書の中で、「地区センターのような生涯学習的施設についても、地域の要になるような機能が求められる」と明記されるようになり、かつ区役所の地域振興課でも重く受け止めて、指定管理者の応募者(民間の株式会社であれ、区民利用施設協会であれ)のプレゼンテーションもまじめに受け止めて、提案書の水準があがっている。地域コミュニティーに目を向ける横浜市における質があがってきて嬉しく思う。
- ▶最後のページで「瀬谷区の主な福祉・保健・医療施設」の中に地区センターやコミュニティスクールもあげてあり、こういったものも地域福祉保健活動の重要な資源であるという認識が広まってきており、かつ地区センターでもやるぞという実践があがってきている点でも現れている。
- ▶第2期は、充実し前進が得られると期待できる。他の区と比べても、大変すばらしいと思うので引き続きがんばっていただきたい。
- ▶事務局の方も一言ずつお願い致します。

仲丸次長

- ▶中区から異動してきて、第5回から参加させていただき瀬谷を知るよい機会となった。
- ▶皆様のご指導のもと、数か月の間、かなりのことを知れて感謝している。
- ▶策定委員から「これが教科書」という言葉があったように、来年度からこの計画冊子を手元に置いて、これを基本ルールとして活用いただき、これに立ち戻って自分達の地域をどのようにしたらよいと話し合いが持てるようになることを期待している。

山下局長

- ▶お疲れ様でした、計画の策定を駆け足で行っていただき、ありがとうございました。
- ▶委員長の方から過分なお言葉をいただきましたが、区社協として計画に関わらせていただき勉強になり感謝しかない。ありがとうございました。

小嶋課長

- ▶本当に短い間にこのような素晴らしいものができ感謝している。
- ▶ご意見も活発ですばらしいメンバーに恵まれたことにつきますと思う。これからもよろしくお願い致します。

榛澤係長

- ▶短時間でここまででき、ありがとうございました。
- ▶共同事務局である区社協やスタッフ、区役所の地区支援チーム、総務部の係長や課長など、計画に一体的に協力してくれた皆さんのおかげだと思う。それに加えて、策定委員の皆様や地区別計

画など、区民の皆様と一緒に作った第2期計画だと自信を持って自慢できる。

- ▶皆様にはいろいろ、突然の宿題やお願いもあったが、一緒に計画を策定させていただき有難く思っている。これで終わりではなく、第2期で1歩でも2歩でも前に進んでいけたらよいと思うので、これからよろしくお願ひ致します。

石原福祉保健センター長

- ▶私の方から皆様方にひとことお礼を申し上げたい。
- ▶私自身は、策定委員会を外からサポートさせていただいている。
- ▶地域福祉保健計画は、区の重点施策のひとつで、瀬谷区のまちづくりを決めていく重要な計画である。
- ▶そういう意味で福祉保健センターだけでなく、総務部も一体となって作り上げていく、今日も総務課長の金丸も時間を作って参加しており、区として福祉・保健・総務一体となって作り上げていっている。
- ▶当初は6回という約束だったが、1回延長させていただき、今日7回目をまとめあげていただいた。皆様ひとりひとりにお礼と感謝を申し上げる。
- ▶私自身、4月から旭区から異動してきた。策定の工程表をみて、全域計画と地区別計画を11月までに平行して行うのを見てこれは大変だと感じた。4月23日の第1回の策定委員会で名和田先生に委員長をひき受けていただき、2回～3回と進むにつれ、これは大丈夫だと感じた。
- ▶7月8月9月に中間案を策定し、10月11月に各種団体説明と意見募集を行い、68件の意見をいただき、計画案を大幅に変更するようなものではなく、これからの各地区の事業の参考や将来的に考えていかななくてはいけない事項などがあつた。中間案の区民の皆さんの評価から言っても完成度の高い物ができあがつたと思った。
- ▶本日最終案をまとめあげていただき、これから区役所の中で意志決定をして最終の計画となり、12月下旬に区民の皆様にご披露させていただく。
- ▶皆様方からの感想もそうだが、計画書の中の委員の皆様のコメントに、非常に真摯に取り組んでいたことが区民の皆さんに伝わる。行政計画ではあるが、区民のみなさんと一緒に作りあげた計画という実感があり非常に素晴らしい計画ができたという印象がある。
- ▶これがスタートであり、これからこの計画の進行管理をしていかななくてはいけない。それぞれ評価を行い少しずつ積み上げ計画の骨格に肉をつけていく作業をこの5年間しなくてはいけないので、皆様のご協力をお願い致します。
- ▶この9か月間、非常にご多忙の中、策定委員会に参加していただきましてありがとうございました。

名和田委員長

- ▶これですべての議事が終了いたしました。最後に皆さんそれぞれがそれぞれに対してありがとうございましたという気持ちを込めまして、拍手を持って終わりたいと思う。(一同拍手)
- ▶本日はこれにて終了させていただきます。

以 上